

THE SHINKEN HOUSING

建設女子／行政

## 建設業には“女性力”が不可欠 「仕事と生活」調和した職場環境を

国土交通省は10月17日、『建設産業女性活躍セミナー』を埼玉県内で開催した。基調講演では、社員8人のうち6人が女性という建設会社ゼムケンサービス(福岡県北九州市)の籠田淳子社長が登壇。「建設業を女性の一生の仕事に」と題し、女性を尊重した職場環境のつくり方を説いた。建設業界で働く女性6人によるパネルディスカッションも行われ、「どうしたら女性に業界に来てもらえるか」を考えた。

大学生から経営者まで幅広い層の47人が参加。そのうち約4割が男性で、「自社の女性社員に活躍してほしい」と願う経営者や役職者が目立った。

### 現場をチーム化する

基調講演の中で、籠田さんは自社で運用している制度を解説した。2006年に導入したワークシェアリングは、1つの現場に対し2~3人でチームを組んだり、男女の現場監督がペアを組むなどして、複数名で現場を管理する制度。関わった度合いにより売上・粗利額を分けることで「正当な評価」をしているという。籠田さんは、同制度により「子どもが急に熱を出して呼び出されたり、学校行事があって抜けたりする場合でも、SNSで情報共有し随時サポートできる体制を整えている」と導入メリットを説明。また、「朝現

場に行き、昼間に一時帰宅して家事をこなし、また現場に戻るという働き方もできるようになった」と話した。

さらに「“男性が期待する女性力”が何かを明確に伝えることが必要」とし、「全社員が互いの持つ力を承認し合い、1人で多くの仕事を抱えるのではなく、多くの人が職に就けるよう現場をチーム化する」ことの重要性を訴えた。

### “主婦業”はキャリアのひとつ

パネルディスカッションでは「女性に建設業界へ来てもらうには」を焦点に議論を展開。籠田さんは「“主婦”という仕事も立派なキャリア。仕事を諦めて主婦をするのではなく、仕事と主婦の両面でキャリアを積み重ねるという意識に変えていかなければ」と語



[左]「リポーズ」(女性の頭文字)を決め笑顔を見せるゼムケンサービスの籠田淳子社長



[右]さいたま地区で行われたセミナーの様子

り、「主婦のキャリアを生かせる仕事こそ建設業」との見方を示しながら、女性社員に10年後のビジョンを持たせることの必要性を指摘した。

日本建築士学会女性ネットワークの会の熊野康子さんは「昇進の話が来た時に“子どもがいるから”と断るのではなく。上司はそれを承知の上で頼んできているわけだから、女性自身もチャレンジする心を持たなければ」と子育てと仕事との両立に不安を抱く女性たちを同じ女性の立場から激励した。

鹿島建設の須田久美子さんは「100年後には女性技術者が現場の半分を占める世界をつくりたい」と理想を掲げながら、自分が現場に入った際に近隣に住む女性から「やっと女性が来てく

れたから相談できた」と感謝された経験談を披露。「現場に女性がいるだけで雰囲気はガラリと変わる。次の世代へ現場に女性がいることの必要性を伝えていきたい」と意気込んだ。

最後に籠田さんは「家族や上司の理解を深めることが今後の課題。トップは決意したことを言葉にすることが大切。女性はすでに並々ならぬ努力をしている」とし、「女性はもっと自由に夢を追いかけいい」と会場の建設女子たちにエールを送り締めくくった。

同セミナーは12月20日までの間、全国10都市で開催される。

参加申し込み：<http://www.yoi-kensetsu.com/jyokatsu/zadankai.html>  
事務局：(一財)建設業振興基金